

門へ遠13
 冊 2209
 卷 34

繪本豊臣勲功記四編四之卷

目録

秀吉智以法正勇遂虜岩成

属木下勅録

言規城攻法秀折毀惟改

属長政及助

豊臣本記

秀吉神策殿日極野見

属江北討陣

前波吉継受禊奈又山嶽陣

属新倉退陣



繪本豊臣勲功記四編卷之四

江戸 櫻澤堂山 編輯

秀吉智以清正勇遂屬岩成 属木下勲誅

其徳みふと其職小立る時ハ終結全くらざるべし。是利十百代の正義眼
公その始覺慶得業と號まわらせ南都小立一はしまさば一遣公方小進
むの運ありみどろ言信の名ならんや然るを還俗ましくて積徳酒小枕
と如何でう天の佐くべき遂小没落一多ひと多バ織田殿細川公等小
命せと模の鴻せもらせ至ひ懸して紫田作久間七遣一。波多宮内
破貝新左衛門と降らしめ 波多一破貝の二招ハ比叡山 次小昭智光秀として山
討馬とと攻懸さしむ諸信長小ハ同月廿一日小上洛はしく。都の勲礼を
溲ゆるハ村井式部丞と諸司付としむ。時小長門中 茲小梶川弥之助宗

重ハ宇治川先進の功賞ありて石馬一匹賜也。別小忌祿加俸あり。元飛の車號ハ不吉ありて。敵意を伺ひてす。天正と改元せり。廿七日ハ新船あり。江別言海郡ハ渡らせ玉ひ本戸田中を攻る。小城を降せず。此城を明智小賜也。廿八日ハ本戸秀吉長岡孫孝を遣して山城國定を攻圍し。同日荒木村重小糸じて和同惟政と謀伐む。しむ。諸も城別紀伊郡濱の城より。好家随一の長忠成之。祝女好道公方家の沖田小随ひ。遠城中小籠居。多色と義昭公と補佐。参らる。氣色ありて。唯將軍の威光を借る。信長とて。方術せし。遠城織田城上洛と所。公方家より番頭大炊助。頼訪花弾。ち二千。余人の加勢とて。濱の城を固め。信長余を本下長岡の兩將小傳へ。濱の城小向し。む。兩將前後小備を立て。一攻と試る。小賢く防戦。る。と見

て。初ハ後小力戦ととも。益あり。計後を設け。長岡孫孝。小向。城を岩成好通ハ。好家を二の勇士。軍意。小賢。又賢。岩成。攻拔。このとも。加勢小糸。大炊助。花弾。の。あ。ハ。必。死。と。覚。初。せ。し。由。の。あら。む。利害。と。説。ハ。降。参。と。下。渠。倭。降。参。と。下。時。ハ。當。城。の。落。を。と。ま。ら。る。兩。人。を。説。謀。計。ハ。形。段。と。叫。さ。ら。る。小。を。長。岡。大。小。威。伏。は。身。あ。り。妙。あり。の。さ。ら。ハ。推。進。へ。と。と。準。備。を。二。千。の。兵。と。と。隊。小。分。ち。五。百。余。騎。ハ。城。を。去。る。こと。十。四。五。町。中。を。隊。備。せ。と。と。又。五。百。余。騎。ハ。本。下。が。舟。黨。加。藤。福。將。を。外。長。岡。が。先。黨。小。も。名。小。負。ふ。勇。士。を。撰。出。し。城。を。去。る。事。六。七。町。路。の。た。右。小。埋。伏。を。秀。吉。孫。孝。一。千。余。騎。小。推。出。せ。先。隊。の。者。小。の。ひ。腐。て。大。名。を。小。呼。さ。ら。る。公。方。家。微。運。中。建。く。と。と。小。河。内。ハ。新。選。を。あり。と。余。の。新。自。軍。を。し。の。時。宜。隨。小。降。参。

せり。然る小當城只一個。一時を悟らざる。僅の小城を恃りて。後田の大軍を拒む事。愚昧といふも愚あり。快理を悟りて降参せざる。信長本より士を急ぎ。敵の心をも懼れ殺さざる。故小降参を許さず。軍の勢を思召を賜ふ。小汝等遠征を辨へて。匹士の勇をたのむ。防戦をすの難せざる。氷の船小を急ぐ。熱湯海を浴す小をとし。朽る花を城小向う。攻落せん。易にまごも大將殊小罪なき。士卒の換亡せん。憐れ玉以遠征と告さ。せしむ。改心なり。降参す。返答ある。呼らる。小ぞ。岩成好通是を所より奮然とて大不怒り。さしと侮る事甚だ。散一其を置らる。編訪番頭に進言。其を理ありと。所より降参せんと思ひ。小目。降参す。心と通す。今岩成が怒るを見。彼と申。拔降参せんと。兩人史と。語らねど。所なる遠を。岩成を勧め。小ぞ。神のぬきの史も。一平

余小城を推用。心先小進ん。本下秀吉是を見。三途に戦ひせ。且しが備負く。敗走を。岩成勇んで進む。以所を長足換合。突出。ひして戦ひ。是も同じ。新起ら。右横左横。小散乱を。本下再び。概と返す。戦ふ。又走り。兩將互小入替り。或は戦ひ。或は走り。一時。あいら。十四五丁。やど来り。遠小五百騎隊。秀吉。孫孝時。分の能。能をへ引返せ。との小。小五兵の吹貫を。振。合。自軍を招け。本下。長足の兩軍。戦を。小。彰隊の五百余騎。一段。小。人馬を。返す。勢ひ。さ。擧。け。起。め。め。め。め。成。勢。の。是。す。小。戦。ひ。旁。ま。ま。事。な。ま。ま。遠。焼。ひ。小。あ。ろ。ろ。四。段。踏。小。あ。り。て。見。あ。る。こ。ろ。を。落。び。合。圖。に。決。戦。を。後。の。旁。小。部。を。々。々。埋。伏。を。し。る。五。百。余。騎。二。隊。小。あ。り。て。起。り。一。隊。の。城。を。攻。め。と。ま。せ。け。一。隊。の。岩



淀城の
戦闘
加藤清正
岩成
好通を
活捉



成が後より。炮發ありて。帰路を遮り。単急小攻より。六城を以て。後撰發ぎ。孔起て。敗走を這こ。一隊は休兵の城小向ふ。攻まら。を敵訪番頭頼より。降参せんと。評後。一は六櫓はより。進兵小向ひ。こきく。兼て降参せま。岩成好通を出拔。早に城を斬る。され。一軍。一。河村。諸。怖。兵。と。争。を。り。る。小。ぞ。進。兵。も。悦。び。然。る。一。個。の。城。小。井。一。個。の。自。軍。小。加。を。り。て。降。参。の。聲。を。あ。ら。し。至。一。と。ま。る。を。發。小。も。番。頭。二。百。余。騎。小。て。城。を。出。進。兵。の。聲。と。一。隊。は。あ。る。加。藤。福。常。輝。次。が。併。こ。の。二。百。騎。を。赤。混。下。て。岩。成。好。通。が。後。より。兼。て。本。下。の。小。を。り。て。正。木。村。井。上。何。邊。を。傷。つ。て。二。千。余。人。大。勢。が。出。せ。う。ち。更。へ。神。標。を。捨。抛。棄。救。ひ。の。勢。の。相。小。井。扮。成。小。進。つ。た。り。大。勢。助。吉。ら。は。軍。免。く。入。ら。ん。も。一。を。ら。ひ。の。當。小。急。り。し。と。實。を。小。好。通。力。を。得。く。備。り。う。の。小。急。を。當。る。を。當。

一隊小より。退返さん。と。ころ。而。小。大。勢。助。が。二。百。余。騎。岩。成。へ。人。を。推。り。進。兵。を。小。急。を。起。つ。た。り。小。急。を。こ。の。好。通。大。小。勢。を。い。り。小。急。を。推。り。進。兵。を。推。り。進。兵。の。拳。止。や。と。怒。り。罵。り。降。も。あ。ら。せ。を。加。藤。清。正。馬。を。跳。ら。せ。岩。成。が。側。へ。致。す。り。て。汝。知。ら。ず。や。早。脱。小。降。る。べき。家。を。い。り。つ。た。り。小。急。死。を。遂。ん。より。吾。等。小。急。を。と。嘲。り。さ。す。一。文。字。小。揚。り。岩。成。大。小。憤。怒。を。借。り。城。中。の。奴。原。の。降。参。せ。し。と。賞。へ。り。應。病。未。練。の。者。輩。を。情。を。小。せ。し。こ。を。口。惜。を。こ。こ。を。一。騎。小。急。を。よ。悲。う。の。の。の。の。の。の。血。截。小。急。を。來。ま。や。あ。と。争。を。り。が。ら。加。藤。小。急。を。戦。え。ん。と。を。こ。を。を。木。村。又。藏。後。へ。持。り。岩。成。が。馬。の。尾。首。を。切。り。搦。り。四。五。人。あ。り。引。成。一。隻。子。小。馬。の。後。を。と。ま。つ。と。搦。へ。て。搦。小。急。を。人。馬。諸。も。搦。相。小。地。向。言。く。倒。ま。り。う。は。正。木。村。を。馬。より。逃。り。岩。成。

小、世と引組らる。主税、強勇なことも、教訓の戦場、小、作、疲れ、刺
 倒、ま、と、死、た、の、緒、と、折、敷、く。志、む、く、計、痛、中、の、別、逆、と、死、力、も、出、む。
 か、と、く、弱、り、て、身、命、を、高、と、清、正、激、ま、く、緒、下、小、と、く、遠、小、好、通、と、活、振、ら、う。
 大、好、既、小、は、提、也、一、人、も、戦、つ、め、り、な、く。怯、畏、を、て、散、れ、を、と、本、
 下、長、岡、の、軍、を、率、以、小、追、逼、被、小、搦、伏、段、段、首、級、之、百、八、十、有、余、級、也、
 中、小、も、清、正、の、好、の、鬼神、と、呼、ぶ、ま、さ、る。志、成、好、通、と、生、捕、り、雀、躍、
 と、る、追、小、敵、跡、を、隊、主、秀、吉、小、搦、を、秘、小、本、下、殊、小、感、賞、せ、れ、直、地、
 濱、の、城、小、別、り、小、誦、訪、花、彈、守、出、逢、へ、降、禮、と、り、城、中、小、請、答、し、秀、吉、
 秀、吉、と、答、應、さ、る、小、と、茲、也、誓、く、彼、卒、を、勞、ら、ひ、本、下、長、岡、の、西、將、の、
 生、捉、降、來、中、軍、と、率、俱、く。江、別、言、答、の、許、陣、小、矣、り、勢、と、言、仕、
 一、と、ま、大、將、小、も、流、く、後、比、并、時、小、岩、成、と、擊、出、し、渠、と、降、伏、せ、し、め、ん、と、

理解、と、り、て、示、す、玉、宗、小、岩、成、の、猶、害、心、あ、る、由、一、今、遣、虎、口、と、道、也、是、非、
 小、亦、意、と、違、せん、り、め、と、降、参、を、乞、う、小、と、信、長、小、も、執、腕、せ、ら、ま、る、子、自、總、
 と、解、答、さ、ま、し、古、力、一、口、恩、賜、あ、り、と、秀、吉、君、小、謙、言、と、り、く、小、智、勇、の、士、
 小、且、公、と、志、成、と、助、ら、る、事、終、へ、く、と、好、通、い、る、と、志、實、と、り、く、君、小、降、
 伏、つ、ら、ん、事、今、備、へ、命、と、助、ら、る、再、び、怨、敵、と、ら、ん、事、境、小、照、り、視、ら、
 が、如、し。岩、成、誠、小、公、方、家、の、將、將、佐、小、泰、じ、ら、ら、義、昭、公、の、許、借、し、
 と、括、の、萬、小、指、節、ら、る、熱、さ、く、後、援、小、急、ら、る、と、を、る、極、勇、の、者、な、ら、
 公、方、家、將、大、事、の、期、中、も、ま、ぬ、ら、と、濱、の、居、城、小、引、と、意、に、し、は、是、偽、計、
 確、據、ら、り、遠、道、濱、の、一、戦、入、志、成、が、力、の、あ、ら、け、死、積、と、り、て、戦、ひ、く、と、も、
 渠、が、運、命、竭、ら、る、由、一、虎、之、助、小、活、振、と、ら、る、誠、の、勇、士、た、ら、り、の、聲、言、者、免、
 せ、ら、る、と、も、違、小、死、と、誓、む、と、小、熱、と、な、り、て、助、命、と、執、り、降、來、せ、し、向、心、

父人の作や伊賀者鬼神など獲將ありて願の怖くこころあはれ日
 合戦始らる乃折衝つて和田を設へ所意寧く思へせと風能く言
 ろるを難小やあると見てもいし折津守村重が懐中川瀬来津秀あり時賢
 大膽不敵小して軍意小もまて賢多と諸軍士漸来が廣く心憎く思
 けん折の口廣き人言ぞや軍調小曾て蔵り戦場の獲將ハ決せり
 小を益の強をせしむるを申川うち突ひ者ハ敵の勇の備へ自方の
 軍威を減を弱とせざるに論及せりハ翌の戦場小和田を設るは後
 言此廣き狭れと詳小知至へて謂放る吾宅小隊り軍の準備する松小
 覚彌入ハ七月廿九日荒木拾津も村重ハ百金勢を引象く言柳こ
 して推出し馬塚との丘小陣を構へ和田帷政を怒らしめん使者を以て
 城申へ過言の限りと謂送る小も謀言小臨りて伊賀者惟政動怒して憤

金堀の村
 村小の
 標ハの軍標
 の山小
 兩陣の
 廿金町
 川中
 小の
 小あり

從業の不和小ましく溝長一の使者を以て追逐し進時軍
 七調へく二百金勢を堅固小備突出して推し。標隊小隊伍とて
 ころ荒木が使士疾走返りて和田を返答と被る本と小村重堂を拍
 飲び吾謀計全々熟せり。方信者上城を推し小と後向も中ら伊
 賀者標隊小出く信陣一とて村重遠小を親く自軍小軍威を灌
 ひてのふやう各依あきて號着せ。敵ハ標隊小陣を居る小勢はしくも
 自兵の隊備ハ甚くはき馬塚小あり標隊小馬小會り。のるんぬ
 天慈の理の符命とて自方の勝利を自當小天口あやて頼るなと
 名軍統めや收進ゆと荒木が下陣小之隊の場を昨日申川に廣言
 せとて切んと思ふ。又此小して又將村重信。傲勇の一句を演
 小諸軍士とて號まらんや烈火の如く軍勢。和田帷政情後と

して三つら正先小馬を遣め、二百餘騎を左右小従へ、先本が隊中へ、
 地小教入千面、角と斬殺。常復化して戦ひ、先本を業
 中、小要あらせんと先を幸ひ致せ。伊賀守小操、入るるに、殿提
 んと突殺しぬ。是と、浪勇を、双の和田惟政、群り、鬼の、はともせ。當
 る小仕せ、次は、維も、級、高小戦ひ、由、場、あ、る、先本が、さ、す、
 其、辨ひ、小、教、し、て、或、の、殿、を、或、の、疾、を、負ひ、散、る、小、あ、つ、て、引、退、れ、又
 向、り、の、あ、つ、し、る、伊、賀、守、の、し、く、激、馳、し、る、力、の、綱、の、續、く、又、と
 必、横、に、將、小、教、し、る。進、ま、是、小、群、易、し、て、中、川、殿、の、あ、つ、さ、め、自、當、敵
 將、彼、方、小、あ、つ、出、て、殿、提、ま、ぬ、と、呼、ぶ、も、く、遊、將、を、中、川、瀬、東、を、と
 所、ひ、て、く、昨、日、の、駒、小、遠、を、證、指、の、指、と、さ、る、會、と、と、後、者、と、も、と、と、
 一、騎、陰、を、提、て、致、す、背、願、小、四、五、寸、計、の、知、布、の、小、教、と、指、る、る、陰、

ち、く、里、邊、小、記、せ、一、文字、を、讀、小、し、中、川、瀬、東、殿、和、田、伊、賀、守、と、書、者
 たり、他、軍、も、自、軍、も、と、と、と、禮、を、呼、大、旗、の、中、川、や、戦、場、外、小、人、の、見、奉、止
 懼、さ、も、悪、一、覺、來、る、や、と、驚、つ、る、も、自、方、の、勝、人、事、を、知、て、手、小、汗、握
 り、見、物、を、瀬、東、の、馬、小、怒、凡、と、起、さ、せ、和、田、惟、政、小、を、信、り、声、を、振、る、
 吾、衆、人、小、折、を、言、て、伊、賀、守、を、殿、と、公、此、戦、場、を、退、く、ま、じ、と、當、慥、中、近
 彩、の、如、く、記、し、て、軍、神、小、折、を、う、り、る、業、首、操、せ、と、所、より、も、惟、政、怒、眼、を
 ち、と、睜、き、向、言、も、せ、で、跳、驚、し、清、秀、原、來、和、田、小、方、ら、ぬ、勇、力、あ、る、小、願、陰
 御、小、練、達、と、然、も、も、と、時、を、移、し、て、退、つ、返、つ、の、戦、ふ、不、ど、小、惟、政、敵、割、の
 大、力、う、ち、小、神、心、ま、く、く、勞、果、然、も、弱、く、て、人、の、さ、る、處、を、中、川、を、ぬ、と、陰
 と、根、糸、馬、致、し、を、和、田、小、組、つ、く、惟、政、得、つ、と、ち、力、を、と、て、馬、上、に、あ、ら、小、操、合
 々、が、双、方、獲、と、踏、を、ぐ、大、地、小、撞、と、精、落、と、由、小、岡、の、勇、極、ま、ま、精、汰、奮



豊臣巴四編卷之四



豊臣巴四編卷之四

少く扭合らるるが伊賀守の病後とのひ戦勞までありたる由申川瀬平小
 組布らるる劍運をべた力なく終小撃まで死しは惜まも程余あり
 乃に清秀八穂く首提あげ大言高小松列小於く遠年月鬼神の
 如く沙汰する。和田伊賀守惟政と申川瀬平清秀が昨日の軍勢
 小違多あり。折の如く殺捉らる。敵ハ瀬平が當標少く初は自方ハ清
 秀が誓ひ一詞の雀一うぬを鑑ま。と云うる小争をりたる小を強小清
 秀ハ身代の名士ありたり。と欲も自軍も感賞一たり素惟政が武勇
 猛力は清秀小の劣らざるも。瀬平ハ軍意小賢死士は是は花日諸
 士と列せざるが故に和田を撃たざるべしと強うが小言せしを諸士
 其心と惜らざるが故に笑ふと今さ小愧是より上下志服しり。言
 概の城中六丈將既小語ま。是は後々曉くも散るるを流木のそと

陣際も此程退逼る。戮辱ら苦もろ城を棄る軍の始終治伸
 せし。信長殊に感賞せらる。後て池田伊丹をも征討小及をま。小
 流後守勝政。謝せし。信長も是を折るは。はげき。は
 紀列守野(潛登)と出家深衣の身と化果たり。伊丹親興ハ芳樹のち。ひ
 戦ひま。とも。限小九牛が一毛のま。六の。名。跡。を。失。る。事。最。哀。な。る。事。
 つま。は。然。か。ど。小。信。長。ハ。數。日。の。間。言。渡。郡。小。ま。ま。して。諸。不。の。政。事。も。固。決
 一。八。路。の。賀。と。兼。て。禁。庭。へ。奏。あり。所。辭。を。と。奉。り。同。月。四。日。の。朝。に。死
 小。信。長。ハ。所。辭。城。は。し。く。る。も。更。ハ。關。を。江。也。る。淺。井。備。前。守。長。政。ハ。公。方。家。の
 所。信。長。ハ。甲。列。の。武。田。信。玄。と。謀。を。謀。合。織。田。と。押。入。て。撃。んと
 せし。信。長。ハ。強。運。の。ち。あ。り。して。信。玄。不。意。小。病。死。せし。長。政。ハ。と。く。か
 三。を。失。し。同。も。あ。ら。で。公。方。家。小。所。還。を。ま。り。今。ハ。淺。井。家。一。寡。と。な。り。



方。是こゝ不ふ属ぞくくくもも下げ。律こゝ調とえんと思案あんなり。日ひ根ね野のが任居ゐ小ことたをと。
 誰たれ謂いえん風ふう徳とくをとやり日ひ根ね野のを身月げつ来ら日ひ比ひ濱ま井いの技助すけとうけらら。
 長なが政まさの情を小意いせむを却て仇としをとめりとありと長なが政まさ父ちちをと殺ころひ。
 其その虚まぼろし實まこととり伺うかがせんとめ時く使者しやと送るはく小遠とほ并なら終しま云いの族有ある長。
 政まさ津つく足才さいを殺ひ法の患ひと除のぞくを情なさ小こ謀まう殺ころの企ありと考かんがへし。
 ぬらる小ぞ日根ね野の身みもを来こへ心惑まどひ一時とき坑やまひまがこの流云いと実。
 と心得こころ才さいの要法ほう小こ意いりぬく此地ちと退きんとまりらるが日ひ家け龍りゆう與よ小こ。
 越こ前まえ小こ深ふか遊あそて才保たも善よくとど娘酒さけ小こ長ながとり所ところありと遭あひ遭く練書まと。
 野の才さいの安否やすを情察さつと小過と日ひ竹たけ中なか重おも法ほうがこを一詞ことばのちく小徹とほ心こころせ一と右。
 やたと沈吟しん小こ狗いぬを煙一いり然る小流りゅう井い家け人ひとも日根ね野の身みも此来こ月げつ。

遊あそとありとまる事ことの標面めんのこかて。其その内うち心こころの織田お家け小こ属ぞく。自みづか方かたの諸。
 士しと執ひて信のぶ長なが。降くだりぬんが為なりと區まり小流りゅう諸しよをこりとまり来こ下げ。
 秀ひで言ことばが謀こころの流りゅう言ことばをし長なが政まさとしを所よりもいらる日根ね野の身みも。
 吾われ領りやう内うち小こ任にん居ゐ一いづら自みづか方かたの技助すけとありもせむ。所ところを稱える名な城じやうせむ。
 小こと流諸しよ小こ遠とほを織田お家け小こ属ぞく。誰たれ客きやくの為小こありもけららんとありと。
 小ここそ自みづか方かたの諸士し虚まぼろしを殺つて信のぶ長なが。降くだりぬんが為なりと覺おぼへる。速すみ小こ渠みちを除。
 どんの遠山とほの災禍わざはひを懸をどり小と脱小こ害がい心こころの能くをれを。決け定ていひる諸しよ。決け定ていひる諸しよ。決け定ていひる諸しよ。
 とも視認しん得とくとまり願事こと小この目と着て物々もの心こころとめとまりゆ。信のぶ長なが公こう方かた。
 家けとの挑合ひか中なかも日根ね野の身みも心置おきまり登軍とんもありと過とほり然るに。
 信のぶ長なが諸しよと平治へい。政まさ京きやう。帰かへ城じやうせむ。日ひの秀吉しよくも自軍みを率ひて虎こ。
 新あたら山やま。三さん歸かへり日根ね野の身みも境渡わたりを具小こ関せきとう。六む尋たづ地ち小こ料りやう理りとんとん。

八月五日の夜、小室の守と等しく、本下を告せり。
 小室、則ち之を以て十余人、權出。小室は被る。
 過る、辨小室、し豊臣の相小、拾襟、度小、小胞、能刀、潜齋、然、謀
 畧を、爲、御、別小、こ、是、不、心、間者、之、日、根、野、が、家、小、投、走、り、其、妻、小、を、計
 後、之、教、(兄弟、が、評、)違、一、つ、此、謀、慮、者、後、来、り、魚、高、佐、小、を、之、妻、に、
 賤、く、あ、り、序、小、の、口、程、小、清、重、の、難、言、ひ、ど、一、つ、程、小、見、曾、の、り、比、も、憂、
 己、ま、ま、小、日、毎、小、津、二、交、話、ら、隔、心、も、ひ、過、一、つ、小、當、家、の、日、の、ま、ま、甲、
 之、し、が、彼、頼、又、慌、一、つ、走、来、り、當、り、日、根、野、の、見、曾、小、を、之、に、ひ、つ、吾、依、
 が、立、和、の、百姓、們、駭、一、つ、軍、役、小、致、損、也、淺、井、新、七、郎、の、方、小、あ、る、率、一、
 年、餘、小、あ、り、つ、が、今、宵、来、り、の、軍、が、淺、井、殿、の、宿、而、り、又、勢、連、伴、慌、
 く、出、る、と、見、る、小、使、事、小、の、あ、ら、む、と、思、(ハ、公、事、や、あ、る、と、訊、と、被、言、も、隠、

さを告ての、新七郎の作せ、呼、其、心、や、日、根、野、見、方、の、人、を、斬、り、殺、せ、
 己の、主、命、小、て、首、尾、を、金、不、做、果、せ、る、過、分、の、褒、賞、あ、る、と、の、相、然、也、も、頼、
 て、彼、使、軍、も、此、方、の、武、勇、を、見、知、る、由、(勿、く、手、出、も、あ、り、さ、く、思、ひ、あ、
 ら、小、地、頼、り、命、を、蒙、り、點、止、小、道、な、此、方、(を、亦、)曉、談、小、も、精、も、精、
 一、く、所、ん、と、思、(と、心、の、急、行、も、)走、抜、て、漸、通、達、言、を、り、と、聞、て、兄、弟、
 伯、耒、き、し、が、頼、て、要、漢、せ、一、律、も、ま、ば、望、も、強、く、亂、及、み、く、備、の、流、言、せ、し、
 如、く、俺、們、を、殿、と、謀、り、な、が、も、露、向、小、謀、也、加、あ、る、騙、の、他、の、詭、譎、も、恥、し、し、死、
 百姓、輩、は、手、を、信、て、人、知、ま、さ、と、害、さん、と、の、憎、死、新、七、が、料理、あり、何、ま、ま、今、宵、
 進、来、り、多、寡、の、知、さ、ら、る、士、民、の、り、捕、小、は、ら、ぬ、當、敵、小、こ、そ、と、急、あ、る、一、つ、ち
 向、ひ、儲、く、汝、ハ、下、計、な、ぐ、ら、よ、く、も、大、事、也、知、せ、り、天、下、を、一、と、感、稱、一、つ、兄弟、之、ま、あ、
 子、息、老、堂、被、是、上、下、士、人、準、備、せ、り、と、相、謀、り、



秀吉神策 伏見根野兄弟 属に北討陣

火を冷めしめ氷を熱くしむるも日根野が鐵石義勇の心解せればと
 うららん小介本下が計り所へ八臂二目の天魔鬼もあき半く謀源を知り
 至らん然れど小本下の兵軍と形百姓の打拵を日根野が兩居小走ち
 つき門の戸放て是ハ鄰村の百姓あるが言言を聞き頼ありて夜中から走
 りあがりぬる用玉と叫ぶ小走ち護る日根野兄弟諸君を奸輩とせんまこと
 門の左右小走ち潜めて一個の小僕小門を算させ二十余人の百姓を食残り
 内へ密に手速く六雄を潰固めて有をともひなきを端著押着一個も余
 さで捕らる百姓軍の懼怖き五陣を地小損潰喚くを好半とては義勇脱
 せが仇の小具足小炮短刀かりひく小潜持り棒と藁の根をひとく掘る
 異口同聲小自吐をさす。俺們のまは清井新七亦敵小繼僅さる軍後の

軍小いかに如何ある不龍小や小兄弟は活安を編あり榮く誹殺せよとさく
 俺們小命に不意小欺殺せよと小聲小せ非なく急うつまじも敵對心を
 ひきまひ命計の救さきてよと嘆を所て備中も公放地防新七亦八来ら
 ざらやと訊きまひ然り流浪の人せうち捕らる小ぶら行も仰しはまは海們
 傷りを傳て兄弟の者を殺せよ。若手小命を六狭知させよ我強者
 殺さんとの約束ありと出て兄弟大小怒り新七亦吾儕を侮ること。何ぞ
 新七亦 逃くしれ今着よ渠が柔頸毀て此背懐を挿さるやいらる重き
 ぞ憎き小冠者が拳止らると血眼をて罵りまは百姓軍の怖る。我々
 もこの本下の百姓軍小ては軍後飲奉小當らまて新七亦敵の益満小
 遠き世上の流言小沙井の滅亡を死小有と祈小つ。如何小も今と古
 へ降り。親や姉兄小逢ふ侍まじ。引當らま目を送りぬ明日小も合戦報

日根野の兄弟



秀吉智と
走らせ
日根野の
兄弟
欺を



日根野の兄弟

ら六殺さるんことの悲しくい今宵は命を助あふ六村七所を欺ひて
 是中へ伴ひ重をべしと懐ひあがり小徳を兄才然くは汝をまて人
 馳降りて新七所を呼出し来りつたが如くて欺きをせし然るをい先小
 も言をごとく兄才衆の連も吾們が力不及び難危の由を伴ひて
 さへ速小来り申す。其の由兄才衆百姓輩を對し小なり。競争ふ
 態小りてなり。重を小ぞ兄才實小もこのことを譲り彼二人の
 途を急ぎ新七所が邸小到り吾儕は丁野の百姓輩も此方の客分
 日根此兄弟の人のつとて今日暮近刻村中の豪家へを膝
 小推投し井新七所及の計指あつとて金浪米穀を棄投此道と
 ありて之降り如の故や兄才元懐く家社を拾取此地を退きの
 さぬら由へ村中の輩もと遮尚棄し取らば金浪を取返さんと今

毛を小言戦の最中あつた定で礼坊のつらへ登り水徳め下さるべしと實
 小討つた新七所大ひ小徳を備へ日根野極非道となり織田家一陸を
 毛を小言戦の最中あつた定で礼坊のつらへ登り水徳め下さるべしと實
 小討つた新七所大ひ小徳を備へ日根野極非道となり織田家一陸を
 毛を小言戦の最中あつた定で礼坊のつらへ登り水徳め下さるべしと實
 小討つた新七所大ひ小徳を備へ日根野極非道となり織田家一陸を
 毛を小言戦の最中あつた定で礼坊のつらへ登り水徳め下さるべしと實
 小討つた新七所大ひ小徳を備へ日根野極非道となり織田家一陸を

逃さるゝと真なる事小弥次右衛門憤怒不堪馬を跳らせ先小突出た。
 徳病未練影七郎そこ一寸も退事なまはせぬと俺們が恨まをたら
 さんおれと罵り殺ぐ悪さを影七郎も陰推搡ぐ起向ひ友之合演
 戦ひ。彌次右衛門猛威を奮ひ電光の如く赤出を志力茫影七郎も
 小馬より下へ破く落し。重威小突く強起をまはせ残さぬるを避ふべき。後小
 助のふとみぬらむが様く。余らむぐ遊まらり日根野兄弟影成る上へ小左
 とも善からん早く退去さべしといひ百姓軍も奇小過まぬらち河邊
 あらべし。さきく引導すまらんて。園次小突くと下野と強抜田川の渡
 越せ川とへ出んとさる小雲雀山と虎折茶山の隙小隊伍と連る勢あり。園
 次小突くとさきく遊まらぬと湯井のさきと覺しぬ。行先をまよと喰止て通さぬ
 とす。ゆひひ。足中。難さとうち笑ひまがましく。前めはる自己こがふと知ら

ね俺們も名も知らざるあべ。日根野備中弘就同弥次右衛門も徳あそ
 妨ぐと二つた命と先ひ法面とさる。時をまよと破軍勢も兄弟の叛賊と。
 影七郎とさめ番先より待得らる先尋常小侍せらまよと罵るを推搡
 をまよと兄弟の眼と腫ら。まよと強敵らし通らんと多勢の中へ突指せん
 と身構り。機合こそあま。虎折茶山の山上より。五五十のさき絶下り
 湯井勢を突起。四角八面小退散を申より一將正先小進。行者を
 まよと強敵を斬り。茶小を法の戦とまよと峰をうらぐ馬を強進を松拒の
 先う小助退。まよと日根野と入らまよ。いさる。故の強敵と同一く。列
 人まよと竹中守備重治。兄弟の者警たら。事の本末をまよと小そ
 重治もまよとつぐ。所て果敢あらんと思ひ。由徳。足下極が許小おれ
 信義とりの理解を流ら。まよと今まを悪く。過らまよと満たられ。是



よりのづく志行んと欲しなまふや疾申殊おちては諸次山坂あり小兒
あらん四好の乃丈も悪くはえらひ重なるはまづく今青の吾陣を
来りて休息す玉と勅めり由一先ずも行つた當の死身は行中重治
が芳志小随ひ虎形希山の城の中へむきて共小入る。是くわ秀吉が智略
小て諸をま一軍を津井勢と見せしむる木下が隊のさしあり諸隊中
を妨げざる行中を揚入し目根野見せし連入道とさせぬ謀計の鬼神
も肝を冷しぬへし首尾整て行中八日根野見せし城小侍ひは陣中
諸へ入る懇切小答を返さし津井家を邊をせらるる上へゆふゆ(おむた
玉ふとも心のまふう人々も今も今も人を論共信玄既小病死し。北
条の最弱あり謙信の四方小歌あり。他國者も用めはじ今眼前の
理を察し時運を謀りてこそ小共鐵田家小侍仕せらるるは天道小難

取らんと種々利害をなま小兒兄弟今心せ傾け竹中の朝小随ひ
鐵田家小侍ふきよりささ重治とて本丸小丸本下(朝と志知せし
小秀吉又小執腕し。再時小兒を本丸へ諸へ懇切小令釋しと
是下飯の言勇大智とて戦玉小卒しとあえん事。珠玉の光りと源を小
似らう。今より而志を華ゆ至ひ鐵田家小侍仕せらるる。天卜の大幸信長の
満足目各々の達運あり。信長も日あらだして當國へ出馬あられば功と
あらしし名譽とて万年の後小殘りなと味意なくもてやるふより。目
根野が芳志喜ひ津井家の給助と翻て換り。勇士と重んじやま
事よと別々木下が懇切小いも増々感付はし。翻く安途の思ひせり。今も
備秀吉より是飯の怒きさび小行田飯が自軍小屬し。津井家(對)款
の色を目せり。小より津井の軍恐怖防衛の方術も疎る。征伐の响絶

多く大志を避んことを今信長と義系長政と軍機の方算を論せり
織田の権勢五万余騎。法井船倉の四方五千里までの遠くへといふ
大將勇士小強弱あり。統む自軍の志を以て。抑む敵と闘ふにこれに
尋常の軍とくらふも。勝敗已小分明なり。然ども本小秀吉の戦ふ
志とて操せんり。この遠小の奇計とす。大嶽と攻めんとて
さる降りし。越前武士前波九郎多景と。情小招れ。是れ小織田家小来
りて忠義を竭す。誓志の志を以て。この功も遠く。今彼の對陣と
考ふる。小法井船倉滅亡の村。新田來るあり。功とらるも。今この時
と受も。遠くあり。是れ遠運謀。尚忠功の法活る。政心ありと
誹謗せらる。遠小幸ひ。今是れ大功と。是れ傳を起る。病骨と持せ
是れ料理首尾。是れ果せらる。是れ我前退治。是れ二の功あり。諸ひるる

いふといふ。前波吉継を以て。今せよ。あつる。速も。いふも。一と。忠功と
達も。好む。所あり。方便のあつる。教(玉)といふ。小本。耳小。口せ。奇志を
詳小。耳ひら。吉継。所て。大。小。喜び。主。準備と。ぞ。や。う。う。る。是れ。大。嶽。この
曲。論。と。ち。り。る。淺見。對馬。と。系。親。い。お。波。九。郎。多。景。が。妹。婿。小。て。吉。継。と。い
縁。中。あり。又。と。心。的。と。十二。日。の。夜。前。波。九。郎。多。景。只。獨。情。小。法。り。ん。が。陣。小。利
り。織。田。家。降。系。せ。ら。る。と。古。と。巧。小。理。と。説。は。ま。い。對。馬。も。淺。井。船。倉
滅。亡。と。い。ふ。遠。般。あ。ら。ん。と。情。と。ら。る。思。小。機。合。多。い。忽。地。前。波。が。幼。小。隨。ハ。陣。系
の。事。と。論。ら。る。小。と。吉。継。別。對。馬。も。小。謀。と。謀。合。せ。二。は。曲。論。の。軍。の。法
井。家。の。侍。士。も。巴。結。の。九。の。諸。士。と。くら。え。んと。淺。見。對。馬。も。小。案。内。を。前。波
の。語。も。女。孫。刑。罰。小。林。孝。右。衛。門。豊。原。西。方。院。依。小。對。面。は。前。波。吉。継。と
と。密。めて。其。言。を。ら。く。乃。又。の。越。前。の。奉。行。あり。が。義。系。圍。籠。小。て。仁。義。と

志を家人を憐む心なり。忠を以て用ひて諫者七信。國政正しくし
 のり軍家小謀事絶論あり。いそぐ大國を有つべけんや。今も相續はし
 るい譜代の勇士多きごうあり。然るに義系、世道中て天誅下る時正れ
 り良臣忠士あるひに死法し或の老て達用せざれば今用小達べれ武士ハ山崎
 長門も一人あり然るも義系思將下と忠良の臣と用ゆる事なり。山崎
 吉家孫吳子房の才ありとも兼朝倉の滅亡を佐得る事あり。是
 義系が天誅の道ごりて所謂あり。各遠地を堅く守りて戦死をこそ益
 さらん居る者死をりて忠を謂ふといふ事ハはる君の仁恩小報ひ
 んこの義信をりし義系思昧小して倭奸邪妄の族を愛さぬハ小忠義の信
 ハ常小諍者の古みと忠を行時も安んじ心なり。活る愚將小死をりて報ふ
 の不謂ひるべ。各こは至理を毎(織田家小歸付) 玉もハ天意小諧ふて

子孫も報義(名譽も末代小殘るべきは) 後身も既小心と兼め織田家小歸
 かり畢ぬ候く心と決する事と理明と責て説く小を。秋藤小林忠地迷ひ心
 要とて歸付なり。教(不信せく) 降参せんよと推参し玉も目と謀ふる事
 二人も安途一。然るに時系の體とて一の功を達するも長ハ今宵小居と涉見
 殿のそとりのて。二の曲論と攻つた際。各儀據の形小りてなり。却てこも小責玉
 然るに人の清井のりけごも遊出さんハ必定向り。諸二の曲論と系据る小我
 小續ひく詰の九(攻指) 各志(志) 戦ひ防衛の方便つたる小信
 小て田神山の本陣(赴き) 智舌と奮る小義系と。うろく小初めと多この信
 成就する小むりて。軍功右小出るりけご(恩賞) 多き惜大ありと。小
 なるおどこ人の躍悦なり。是を詰ひ軍勢小違ひ重と多とて。前波を絶
 を還し。九常き湯本下を諫小列る。四人の活受と告る小を。然るに時利と

後を多とて富田跡の齊毛を猪助増井を内儀執事とす
 隆人小土平を教多當副て若波津田が加勢とす。別小張心の
 士五百金銀標び出して是をばしそへ推出をす。一、下穉を傳へ
 ちが遠旨を本陣へ云はし。直地小大嶽へうへをさう。既小燒虎
 曲輪の丸小入る。是は本下が後心の丸士五百金銀を調る。小台城に
 際と断裁階位を覆重小固めさせ。五人の勇士ハ昂地小二の曲輪へ推
 進息をも継せむと攻むる。遠丸の守將ハ清井の家原井は越前守
 千回米女正ひりたるが力を竭く防ぐといふも。之は曲輪ハ既小森ハ
 是今日で自軍と思ひつる。對するまで織田家小加さう。攻むらして井
 口十田始免くはつる。おらる。詰の丸より小林、女孫自營と成り。家原せ
 へ。儲ハ後援の来りぞと悦ぶる。さう甲斐もかく。却て進軍を擡る。体

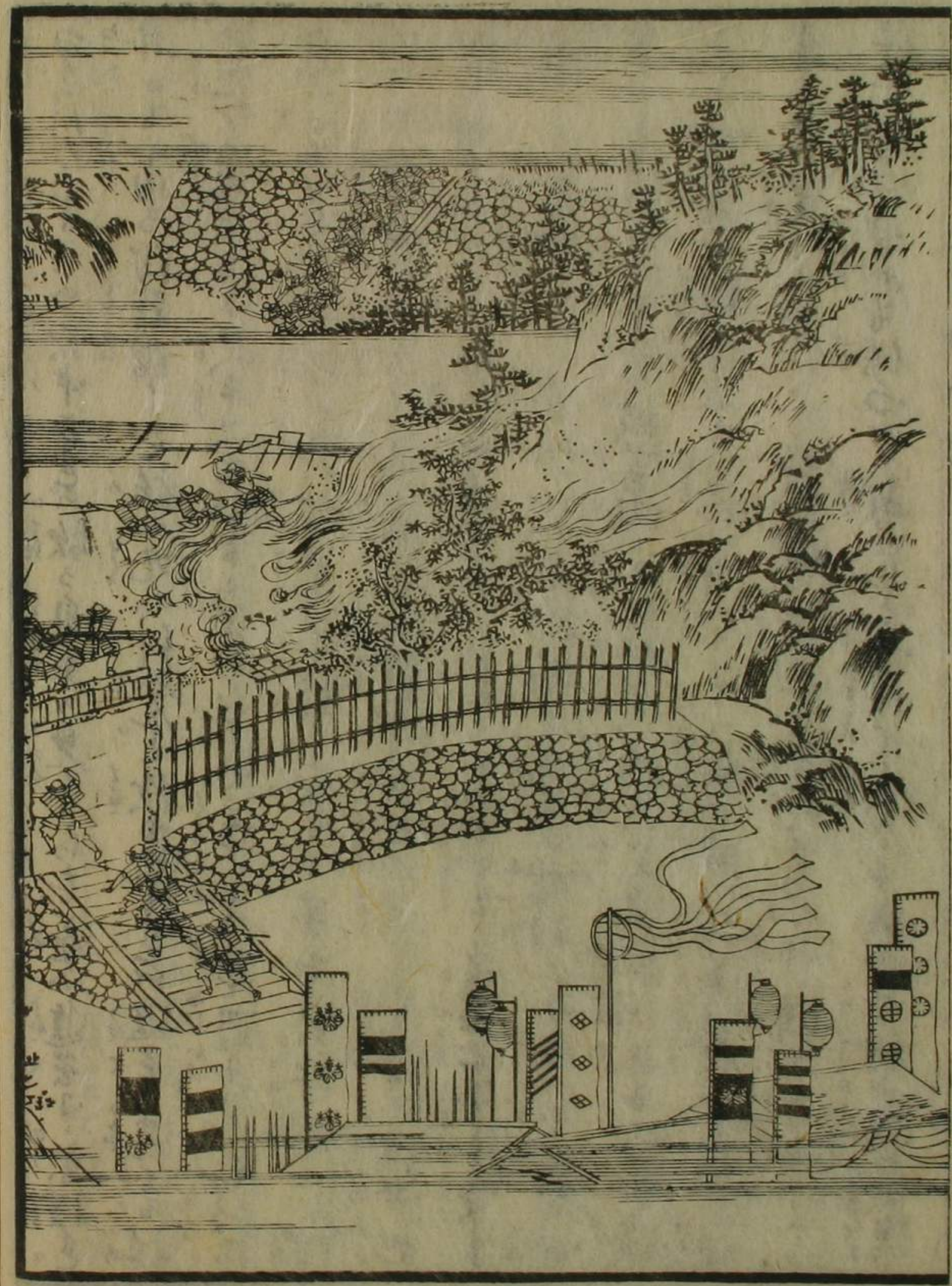
あり月のあきとも夜中さまで。款の自軍を見分らむ。遂に進軍小。家原
 井口も千田も防戦詰む。詰の丸へ引入んと致せぬ。是は進軍ハ速くも。詰
 の丸を棄てたる也。是も今事あるを。之を遠く虎口と逃し。若波津
 田ハ自息をもつがむ。詰の丸へ攻むる小。謀一を。事さす。守將三人防
 ぎ。今事々逃し。義原津本陣ある。田神山當て敗走せり。清井
 倉が情を切らる。大嶽山の要岸も。一夜のうちに小。左右小。夜も
 曉へ。大嶽山の丸の番隊ハ不破塚に丸毛の諸將二十余人をこれ。調
 置十音の早天より。若波津田。毛谷増井。清井。兄。弟。岡。又。子。を。べ。降
 参の諸士。備を魁起。本下。是を督。丁野の城へ。提。蒐。堀。ひ。さ。な。ぐ。燃
 茶をうり。是をうけ。さう。丁野の城ハ。僅。五。百。の。名。を。見。て。此。一。構。小。守。城。一。つ。ら
 こと。の。ま。ば。暫。時。も。保。つ。と。被。は。じ。と。慄。怯。て。互。々。が。城。の。守。將。中。河。越。た。つ。

秀吉 謀略 前波 倚 大嶽 三郭堡 陷得



豊臣記四編卷之四

十八



豊臣記四編卷之四

十七

系統正治道をぬる覚悟し進み遅しと待間もあきせむ織田の大軍
 城際中を善地小せぬ進み响秀吉前波を振れ下野の城を河渡
 さる。今の助け得るまじし高し驛もあつた言継こそと来り中島
 方へ使士をりてその旨言遣し小死を極る言兼が命を助け込
 と所いりて候をならん早速城を渡さし中島より返答あり
 進み候と退き候と城をどゆと退き候と中島が軍へ悉く城を立出
 思ひがけあふ助命を得て田神山へを去りし。秀吉軍の本軍と信長
 言はせし返りも感悦せらる。然る遠方より軍を起り有る
 公戦の事と宣ひ多と秀吉判し。情小察し上言せし公戦
 と止る。今日一日と證合を至し。必言義系頼小公田神山と退陣を
 べし。信く諸將も命せられ退段の準備とわさしめらる。君も名譽に

漸くあり候。頼と公を候至し。故の退治と退段の事。是十今の勝利を
 得く。頼も亦も属投下。然る所謂の大敵の守將。後身と共小降参せし。
 小橋。秋篠。分軍。謀と重合め。大敵の防戦。諸をぬけ。田神山へ退陣を
 せ。義系小公と初む。謀合を置。必言。今言。大將。義系。田神山
 と退陣を。是亦仍て退段の準備。約要。小催と云。状せ。六信。長大。院。赤
 まし。頼も料理果せし。は。言。代。思。後。の。妙。策。あり。と。感。懐。志。遂。休
 至。今。時。小。諸。士。へ。漸。下。辭。あり。て。義。系。今。言。退。く。へ。言。退。段。の。准。備。急
 しく。相。候。は。し。伯。鳥。さ。し。只。言。款。陣。小。眼。を。つ。け。瞬。も。せ。ど。は。し。ら。備。入。候。者
 小。橋。信。十。三。日。の。曉。め。ころ。大。敵。の。陣。を。退。出。し。田。神。山。へ。道。帰。り。義。系。小。重。し
 たる。中。島。と。言。く。隨。分。堅。固。小。守。り。防。戦。の。准。備。急。り。軍。威。屈。せ。を。控。り。不。下。燒
 虎。の。曲。輪。と。影。り。し。河。原。討。馬。を。愛。心。は。織。田。勢。と。て。自。己。を。陣。取。り。お。び。死。投

一、二の曲通(せめり)を二、三の小掘(つぼ)起(おこ)す。俺(おれ)們(ら)後(ご)通(と)り出(で)る(に)も敵(たか)
 大(おほ)勢(せい)中(ちゆう)と防(ぼう)ぐ。千(せん)田(てん)井(い)口(くち)段(だん)段(だん)負(お)つ(て)小(こ)笠(がさ)通(と)入(い)る(に)敵(たか)
 能(よ)九(く)推(お)す。列(れつ)火(か)の如(ごと)く攻(せめ)らる(に)士(し)卒(そつ)損(とん)損(とん)氣(き)怯(け)して忽(たち)ち地(ぢ)敵(たか)
 をぬ俺(おれ)們(ら)を場(ば)を去(さ)して戦(いくさ)死(し)とな(す)これ(を)彼(か)れが死(し)つ(て)も大(おほ)守(しゆ)の
 所(ところ)為(な)る(に)思(おも)ふ。津(つ)道(みち)返(かへ)て作(つく)大(おほ)嶽(たけ)の要(よう)塞(さい)を全(ぜん)く奪(うば)つ(て)
 信(のぶ)長(なが)必(かな)勝(かち)の軍(ぐん)中(ちゆう)より大(おほ)軍(ぐん)比(ひ)陣(ぢん)攻(せめ)らる(に)方(かた)後(ご)遠(とほ)山(やま)の陣(ぢん)構(かま)へ柵(さく)
 結(むす)ぶ要(よう)塞(さい)法(ほう)一(いつ)備(び)著(ちやく)る(に)織(お)田(でん)堀(ほり)と又(また)合(あ)戦(せん)あらん事(こと)津(つ)思(おも)ふ
 勿(な)れ小(こ)笠(がさ)下(くだ)へ。今(いま)日(にち)内(うち)津(つ)准(じゆん)備(び)あ(ら)る(に)亦(また)不(ふ)修(しゆ)ま(す)此(こ)地(ぢ)を退(ひ)き敵(たか)
 小(こ)笠(がさ)嶮(あぶ)く嚴(げん)く防(ぼう)戦(せん)一(いつ)至(いた)る(に)是(こ)れ万(ばん)全(ぜん)の利(り)を全(ぜん)く。今(いま)當(あた)り小(こ)笠(がさ)
 大(おほ)敗(たい)軍(ぐん)の如(ごと)く一(いつ)日(にち)利(り)を全(ぜん)く。利(り)を全(ぜん)く。利(り)を全(ぜん)く。退(ひ)く事(こと)を
 今(いま)を義(ぎ)系(けい)と紐(ひも)め諸(しよ)士(し)一(いつ)日(にち)小(こ)大(おほ)嶽(たけ)の落(お)ち去(さ)小(こ)恐(おそ)怖(おそ)と陣(ぢん)中(ちゆう)大(おほ)守(しゆ)

支(し)分(ぶん)あり敵(たか)ども義(ぎ)系(けい)猶(なほ)心(こころ)決(けつ)せむ。後(ご)通(と)り出(で)る(に)一(いつ)丁(てい)野(の)の將(しやう)中(ちゆう)休(やす)
 城(じやう)を以(もつ)て退(ひ)き。始(はじめ)終(しゆう)の空(そら)を去(さ)る(に)義(ぎ)系(けい)果(は)る(に)忙(いそ)が
 小(こ)大(おほ)嶽(たけ)又(また)再(また)び退(ひ)陣(ぢん)の事(こと)を初(はじ)め。由(よし)義(ぎ)系(けい)果(は)る(に)今(いま)の敵(たか)方(かた)を退(ひ)き
 の解(げ)決(けつ)一(いつ)決(けつ)す。是(こ)れ自(みづか)ら他(た)へ引(ひ)退(ひ)く。准(じゆん)備(び)を全(ぜん)く。日(にち)
 暮(く)る(に)上(かみ)小(こ)大(おほ)嶽(たけ)動(どう)大(おほ)方(かた)より。上(かみ)小(こ)大(おほ)嶽(たけ)動(どう)大(おほ)方(かた)より。上(かみ)小(こ)大(おほ)嶽(たけ)
 守(しゆ)宅(たく)見(み)敵(たか)を陣(ぢん)中(ちゆう)と視(し)る(に)發(はつ)動(どう)を全(ぜん)く。敵(たか)を割(わ)る(に)指(さ)揮(か)る(に)
 退(ひ)く。以(もつ)て忽(たち)ち地(ぢ)敵(たか)を列(れつ)火(か)の如(ごと)く攻(せめ)らる(に)敵(たか)
 陣(ぢん)の如(ごと)く。指(さ)揮(か)る(に)休(やす)む。比(ひ)も秋(あき)の央(なかつ)を日(にち)衛(ゑ)の如(ごと)く
 經(へ)る(に)退(ひ)く。も黃(わう)昏(こん)小(こ)及(およ)び。山(やま)崎(さき)宅(たく)見(み)諸(しよ)士(し)一(いつ)日(にち)小(こ)大(おほ)嶽(たけ)
 柵(さく)連(れん)ぬ。固(かた)く護(ご)る(に)依(よ)る(に)也(なり)。體(てい)病(びやう)状(じやう)のつら。士(し)卒(そつ)傷(きず)入(い)る(に)
 身(み)を惱(なや)む。小(こ)陣(ぢん)中(ちゆう)を憂(うれ)む。今(いま)の義(ぎ)系(けい)今(いま)心(こころ)を退(ひ)

も退くもはあつて後と敵小のらぬらぬら。行時も登く退くべしとて不入
 刻に待もして回神山と陣をらひし。柳が瀬當て退陣を仍て請ふ
 もささ先中と陣をたき焼く。忙慌きとあてゆく。小坂が瀬此
 上と木下が陣へ通ぜし。秀吉と秀と木陣へ討つ小報し。つらら
 信長の始より。驟もせし回神山と甲辰より視決てあまを。唯小坂陣へ
 討つ放せし。今と馬率侍て致出さんとし。多平秀吉形と。是れ
 増と。統と。公軍進めと。大小喝し。信長と。つらら。正先小馬と。致さる玉ひし
 う。近士小姓候と。是後。是しと。軍勢と。しめ。傍ひら。先隊の大將
 柴田。佐久間。丹羽。羽智。候へ。禰て。下。大將。信長。御下。禰ありて。退。漸。の。准
 備と。御さる玉ひし。まごも。又。木下。が。當。推。量。あり。君。を。初。め。し。は。ら。ん。ら。

とて今宵候へ。退く。御あま。な。と。た。の。準備。も。せ。さ。り。つ。今。信。長。の
 正先小殿と。あま。と。入。り。て。致。さ。る。あ。ま。と。つ。め。れ。そ。く。小。倉。大。將。小。後。と。女
 と。諸。拍。入。と。馳。出。と。信。長。氣。速。の。強。將。と。先。隊。の。諸。將。候。出。む。と
 へ。お。も。さ。つ。ら。旗。本。と。せ。ら。る。玉。ひ。し。小。倉。大。將。と。柴。田。佐。久。間。其。余
 の。諸。將。候。地。花。山。と。さ。ら。ら。つ。ら。旗。本。小。進。つ。ら。信。長。し。ら。と
 願。て。つ。く。も。の。難。さ。と。回。せ。ら。る。柴。田。羽。智。丹。羽。佐。久。間。名。の。り。申
 々。小。倉。信。長。御。言。と。荒。ら。げ。て。甲。辰。より。重。摺。し。至。小。坂。の。邊。と。し。て
 し。を。常。小。坂。合。ぬ。意。あり。と。志。す。玉。ひ。し。バ。何。も。社。入。所。候。と。つ。て。先。隊。小。進
 む。と。佐。久。間。信。盛。只。獨。上。意。小。坂。と。鞍。上。小。舒。揚。り。我。君。左。や。小。倉
 へ。ご。も。小。坂。の。内。の。者。と。り。も。玉。ひ。し。事。も。つ。ら。と。重。さ。と。信。長。所。討
 佐。久。間。信。盛。さん。の。入。汝。の。領。小。坂。多。事。と。自。勝。と。つ。ら。又。男。が。好



豊臣自記山崎巻之四

廿一



信長の情激
正解を打つ
朝倉を討つ
追討

豊臣自記山崎巻之四

廿一

とて驕る小や。武勇小あわくハハとていたる不意と事のあるはやくと由負を
 卜して後痛きひ事あるを蓋の廣を放さんや。先階小まとお意此功を達
 したる宣ひ事。そ米馬とを玉ふ原兼信長いさうの事をも心小志をぬ大將
 なまの信盛後不動氣とけけも。這一言より起ると如人実小博むむまの毎を
 あり。物やとに信長ハ一讚小馬と驚させたるが。遠小先へ進むのあり。信長は小
 退つた玉ひ何者さぞと回ひ玉ハ。若田又た是の依り内蔵助。福家来を事つ
 湯湯主助。戸田来友事。言末友吉事。赤尾七舟来事。下方友近富田助右
 出つ倭小はと。鞍巻小仕と。益々。信長殊小感激心あり。今宵の先陣ハ平
 あくで外小と。思ひ小種こそ急らうと。しぞ急げやのそげと。折捨揮あり
 還殘さま。つる。折倉母と。折は。折は。進ん。茲小川と。教宗の通路二
 條あり。小（進め）中（内）の。退路小く。西小向。ハ引回はあり。つる。小つたて。退路

やと。織田勢遠。所小移。様。し。く。退。は。休。と。く。視。ま。中。内。共。こ。と。大。勢。
 走りさなる。由。北。路。當。て。進。免。を。又。推。出。と。ま。す。而。東。小。秀。吉。馳。走。り。也。
 多。勢。中。内。向。ハ。智。と。退。を。と。る。の。は。義。宗。の。軍。と。引。田。口。と。思。は。れ。ぬ。也。
 是。退。軍。の。量。智。あり。利。や。引。田。敷。負。の。地。ハ。折。倉。方。の。城。居。小。て。防。ぎ。也。
 づ。凡。要。處。あ。ま。び。義。宗。必。定。敷。負。と。當。て。退。陣。さ。せ。し。め。は。ら。ん。小。引。
 田。口。より。刀。柄。坂。さ。し。て。退。路。と。す。こ。の。ひ。も。敢。ぬ。小。林。林。藤。藤。馳。走。り。義
 宗。親。め。殺。害。の。臣。家。食。刀。柄。坂。より。敷。負。と。して。退。路。放。し。ら。り。中。内。向。
 諸。條。ハ。殺。害。の。と。大。概。然。し。これ。ハ。只。速。小。刀。柄。坂。傳。と。進。を。至。ハ。と。言。さ。る。小。び
 然。れ。こ。を。て。信。長。親。め。總。軍。一。夜。小。擧。起。り。刀。柄。坂。さ。し。て。進。免。を。と。す。

繪本豊臣勳功記四編卷之四了

